

# やっぱり住むなら 龍ヶ崎だよね

Team : 龍ヶ崎に住み続けたいB



▶ 自己紹介

▶ 私たちから見た龍ヶ崎

▶ 龍ヶ崎の未来予想図

▶ 私たちのストーリー

▶ 未来の龍ヶ崎へメッセージ



# 01\_自己紹介

- ・出身：龍ヶ崎市
- ・在住：龍ヶ崎市
- ・龍ヶ崎の好きなところ：優しい人が多い、車を使って他県へ移動がしやすい
- ・龍ヶ崎の課題：電車の本数が少ない、電車代が高い
- ・将来の家族像：夫・子ども2人

- ・出身：龍ヶ崎市
- ・在住：龍ヶ崎市
- ・龍ヶ崎の好きなところ：都会すぎず、田舎すぎないところ
- ・龍ヶ崎の課題：電車とバスが少ない
- ・将来の家族像：夫・子ども1人

- ・出身：龍ヶ崎市
- ・在住：龍ヶ崎市
- ・龍ヶ崎の好きなところ：生活のしやすさ、買い物がしやすい
- ・龍ヶ崎の課題：公共交通機関が不便
- ・将来の家族像：夫・子ども2人・ペット

# 未来の龍ヶ崎へ私たちがからメッセージ

小さな暮らしの幸せが、未来の龍ヶ崎を描く。

地域のつながりがチカラに、チカラが街の未来に、そして笑顔が集まる場所へ

# 02\_私たちから見た龍ヶ崎

## 良いところ

- ・優しい人が多く、他の地域より近所付き合い、つながりが強く感じる。
- ・満員電車に乗る必要がない
- ・まっすぐな道路が多く運転しやすい
- ・家賃・土地が安い
- ・スーパーが多く買い物が便利
- ・地域のイベントが多い
- ・さんさん館の子育て支援、公園、習い事など子育てしやすい
- ・老人ホームが多い

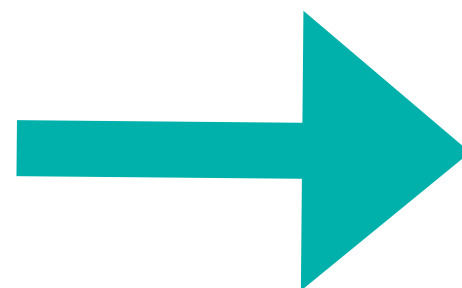
## 改善点

- ・働く場所が少なく勤務先が限られる
- ・都心に比べ時給が低い
- ・バス・電車の本数が少ない
- ・道路の路面を整備してほしい
- ・車がないと生活ができないけど駐車場の確保ができない
- ・お年寄りの一人暮らしや空家問題
- ・公園の遊具が減っている。屋外で遊べる時代でなくなっている。
- ・子ども向けイベントが少ない
- ・学校が少ない
- ・花火大会などの大きいイベントがない

# 03\_龍ヶ崎の未来予想図

## 未来に望むこと

- 常磐線の駅をもう一つ増やしてほしい
- モノレールを作ってほしい
- 電車やバスの本数を増やしてほしい
- 自転車でも移動しやすい道路にしてほしい
- 屋内で遊べる施設がほしい。(映画館とか)
- 勉強や仕事ができるワークスペースがほしい
- 商店街の活気が取り戻される
- 花火大会やドローンショーなどを開催して街に活気がでてくる
- いろいろな世代が交流できる場所がほしい



## そのためにできること

- 自転車専用レーンの設置や街路樹や草の整理
- 商店街でのイベント開催を増やして若者にも来てもらえるようにする
- お店の一部を借りて勉強などができるような場所を作るようお店に声掛けをする
- 文化会館での映画上映回数を増やすよう働きかける
- コミュニティセンターなどで幅広い年齢層を対象にしたイベントを企画する
- 屋内型施設(子どもが遊べるアスレチックや映画上映スペース)を設置

# 04\_未来story



## Story

## プロフィール

- ・一ノ瀬 由衣 ・25歳
- ・公務員
- ・夫・子ども2人・犬・猫
- ・編み物・定年後夫婦で世界旅行がしたい

### ■5年後

由衣は20歳で公務員になり、27歳で結婚し、子育てをしながら地域イベントにも関わるようになる。龍ヶ崎では、商店街での小規模イベントが増え、子ども連れの家族や若者が少しずつ集まるようになっていた。由衣は幅広い世代が参加できる編み物サークルを開き、子どもたちは「さんさん館」の子育て支援イベントに通いながら成長。夫は都内に通勤しているが、以前はバスと電車の時間が合わず、通勤に時間がかかっていたが、今はダイヤ改正により乗り換えがスムーズになった。さらに満員電車に乗らず済むことにありがたさを感じている。週末は家族で近所の公園や新しく整備された遊具で遊び、犬の散歩をするのが習慣。地域に住むお年寄りとの交流も深まり、「子育てしやすい街」という雰囲気が強まっている。

## 04\_未来story

### ■10年後(35歳)

龍ヶ崎には新しい屋内型施設(子どもが遊べるアスレチックや映画上映スペース)が誕生。由衣の子どもたちは小学生となり、勉強会や習い事に積極的に通っている。バスの本数が増え、車に乗れない高齢者の移動も少し便利になった。由衣は地域の若いお母さんたちと協力し、商店街で「子どもフェスティバル」を開催。ドローンショーも開催することで人が集まり、商店街には再び活気が生まれ、若者もSNSを通じて訪れるようになる。一方で課題も残る。都心に比べると働く場がまだ少なく、夫は依然として通勤が続いている。由衣自身は仕事と家庭を両立しながら、「龍ヶ崎をもっと住みやすい街に」という思いを強めていた。

### ■15年後(40歳)

由衣は市役所で中堅として働きながら、地域づくりを担当する課の中心人物に成長。常磐線の新しい駅の計画が進み、モノレール構想も市民の話題になっている。龍ヶ崎の商店街では定期的なイベントが根付き、かつての「寂れた商店街」が、地域の人と外から来る人が交わる場所に変化していた。由衣の子どもたちは中高生になり、駅周辺の新しいワークスペースやカフェで勉強する姿も。「地元にいながら学べる・働ける」環境が少しずつ整ってきていた。週末、由衣は夫と犬猫と一緒にドライブに出かける。心の中では、「子どもが独立したら、夫婦で世界を回りたい」という夢を、現実にできそうだと感じ始めている。龍ヶ崎の未来と家族の未来が、ゆっくり重なり合っていく。



## 05\_未来の龍ヶ崎へ私たちからメッセージ

小さな暮らしの幸せが、未来の龍ヶ崎を描く。

地域のつながりがチカラに、チカラが街の未来に、そして笑顔が集まる場所へ



ご清聴ありがとうございます

ございました。

